９月６日（日）主日礼拝レジュメ
「祈りが偽善とならないために」　マタイの福音書６章５，６節

イエス・キリストのおられた時代にあっては、礼拝時に、前に立って祈りを導くよう求められることはある意味非常に名誉であった。また午後の祈りの時間を忠実に実行しようと考えていた人々は、人前であっても、祈りをささげることがあった。ここでイエス様は、これらの人々を偽善者たちと呼んで批判している。なぜ彼らが偽善者と呼ばれているのか？彼らは完全に本来の祈りの意味を見失っていたからだ。５節に「彼らは、人々に見えるように、会堂や大通りの角に立って祈るのが好きだからです。」とありますが、彼らの祈りの目的は人に見られることだった。本来、祈りというのは神に向けてなされるものであって決して人に見せるためになされるものではない。それとともに、ここでイエス様は「彼らはすでに自分の報いを受けているのです。」と言われた。偽善者と呼ばれた人たちは、人に見られることや人から敬虔な人だと思われて賞賛されることで、彼らは自分の目的を達成し、それで報いを受けていることになり、神様からの祈りに対する報いを受ける余地は残されていない。また、イエス様は私たちが祈る時の心の動機、心の中や思いまですべてを見ておられる。そして私たちは、私たちの思いや動機まで知っておられる方、生きておられる方に祈っているのであり、私たちが純粋な気持ちで神に心を向けて祈るなら、その祈りに答えてくださるお方だということ。ですから、私たちは祈りにおいてまず心を整えていくことが必要になる。

６節「あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。」決してイエス様は人前で祈ることを禁じているわけではない。ここでイエス様が言おうとしていることは、私たちが偽善的な祈りにならないように心がけなければならないということ。人に見られたいとか、人の目を意識した祈りになってしまわないようにということ。つまり人から報いを得るような偽善的な祈りに気をつけるべき。そして家の奥の自分の部屋は、すべての日常の営みから逃れる場所、日常から逃れる場所だということ。６節「そして、「隠れ

たところにおられるあなたの父に祈りなさい。」「隠れたところで見ておられるあなたの父が」と二回隠れたところと繰り返されている。人目につかない家の奥の自分の部屋に入って祈る時に、あなたがたの父も確かにそこにおられ、そして私たちを見ていてくださる。しかし、ただ見ておられるということではなく、私たちの祈りを確かに聞いてくださり、私たちの言葉にならない祈りをも聞き取ってくださり、人の目には隠れた私たちの心の痛みや傷、心に抱え込むようにして誰にも言えないでいる悲しみ、辛さ、孤独、それらもすべて父なる神は知っていてくださる。隠れたところにおれる父なる神と自分との祈りの時間が、まさに豊かな交わり、豊かな語らいとなり、それが私たちの豊かな霊的祝福と変えられる。私たちは信仰により、隠れたところにおられる神を目の当たりにするようなリアルさをもって祈りをささげることができる。無理に自分の部屋を持つ必要はないが、少なくとも自分が心をしっかりと神に向ける場所と環境を整えることが必要。そして、私たちがクリスチャンとして歩むためには、この営みが欠かせない。常にサタンの誘惑、罪の誘惑にさらされ続けている私たちはさまざまな誘惑から守られるために神様に祈らなければならない。二つ目が、主のみこころを求める。もう一つが罪の悔い改め。四つ目が、神への真実な告白。

イエス様ご自身が私たちに大切な祈りの模範を示しておられる。

① マルコの福音書１章３５節「さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。」

イエス様が祈られたように、私たちも祈るべき。そして、この寂しい所へ出て行き、祈られるイエス様の姿にこそ、まことの謙遜がある。

朝目覚めたとき、一日の終わりに祈りたい。心にかかることがあれば主に申し上げ、自分の個人的な課題、他の兄弟姉妹のため、教会の課題のためにも祈っていきたい。神は必ず私たちの祈りを聞き、私たちの祈りに報いてくださる。